

バードウォッチングの基礎英語

今や史上最高の円高、海外の探鳥も身近なものとなりました。外国のバードウォッチャーとの接触も多くなります。そんな時一寸した英語ができれば親密感が生まれ、鳥情報をもたらったり、さらに進んで鳥を介しての友人を得られるかもしれません。英語なんて最初から敬遠することはありません。一寸思い出して中学レベルの基礎的な語彙、文型で十分やっています。必要なのはその反復練習、間違いを恐れずトライすること、それに鳥名と鳥に関する一寸した専門用語を覚えることだけです。限られた紙面ですが英語への拒絶反応を捨て、逆に英語への関心をもって頂ければ嬉しく思います。皆さん、トライしてみませんか？
Let us try!

生まれて初めての外人との英会話

私. Can you speak Japanese?

外人. No.

時は昭和 21 年 (1946 年)、私は旧制中学の最終学年、その頃は終戦直後で日本は正に占領下であり、占領軍 (Occupation Forces) がいたるところに充満していました。私は学校で習った英語をトライしてみようと、Jeep で街に乗りだして来たアメリカ兵をとらえて、懸命の勇気を奮って話しかけたのです。答えはただ “No” でしたが、見事に本物の外人に通じたのです。さて No と言われてその次が浮かんでできません。もじもじしていると、その兵隊さんは、何か缶詰のような物を私に手渡して、

“Pre . . .” 聞き取れない。

“How much?” 「いくらですか？」

“Present” 「プレゼント」

“Thank you.” 「ありがとう」

宝物のように大事にして、家に持ち帰りよく見るとそれはダークグリーンの缶詰でその上に “BREAKFAST” (朝食) と印刷されており、内容物が克明に書いてありました。辞書を引いて一つ一つ興奮して調べたのを今でも鮮やかに覚えています。

些細なことながら私の英会話初体験は英語に対する強烈な好奇心を爆発させてくれたのです。

好きこそ物の上手なれ

「パチンコのお株を奪う英語塾」と川柳に歌われる程の英語熱。テレビ、ラジオを始め街には素晴らしい語学の教材が満ち溢れています。それらを買うことは簡単ですが、それをものにするのは至難の技です。皆さんは、当然鳥は大好きでしょう。それと同じように英語にも関心をもち、ありとあらゆる場合にそれを英語で何と言うか、外人に何と説明するか、といった具合に考えるのです。鳥の勉強と英語の勉強を平行させてしまうのです。

覚え方

学校ではテストがあるのでその為に勉強を強制されますが、Bird Watcher は特に強制される訳ではありません。むしろ自主的にその場を作り出す必要があります。例えば、

A. テレビ、ラジオの語学番組の利用

自分のレベルに合ったものを厳選し、毎日、必ず声をだし反復練習すること。発音、イントネーションに特に注意。

- B. 英語で鳥名を覚えること。日本野鳥の会のフィールドガイド (Field Guide ー略して F. G. という) には英語版もでており、日本語版と併用すれば英名も全てわかります。
- C. 全部の英名をフィールドガイド (F.G.) から覚えるのは非常に難しい。そこで、最も身近な、いわゆる「ものさし鳥」(Yardstick) 的なものを大まかなグループ分け (Grouping) してとらえる。例えば、フィールドガイド (F.G.) の各頁の右上に示されている「類」(Family) 単位の名称を覚える。

アビ類 …………… Loons

カイツブリ類 … Grebes

ウ類 …………… Cormorants

ホオジロ類 …… Buntings

ハヤブサ類 …… Falcons

ワシ類 …………… Eagles

猛禽類 …………… Raptors

まず大まかに「類」(Family) でとらえ、次のその中の「種」(Species) を特定するという手順になりましょう。

- D. 鳥の各部の名称 (Topography) を覚える。やや専門的になりますが、基本的な部位だけは是非とも覚えたいものです。これもフィールドガイド (F.G.) に詳述されていますが、Field で実用度の高いものは、

初列風切 …………… Primaries

次列風切 …………… Secondaries

頭頂 …………… Crown

過眼線 …………… Eyestripe

喉 …………… Throat

胸 …………… Breast

腹 …………… Belly

後頸 …………… Nape

背 …………… Mantle

腰 …………… Rump

尾羽 …………… Tail

上尾筒 …………… Upper tail coverts

下尾筒 …………… Under tail coverts

足指 …………… Toe

嘴 …………… Bill (あえて Mandible を用いることはない)

フィールドにて

Field で巨大な猛禽 (Raptors) がでた、そんな時、

Look at that big one! (あの大きいのを見てごらん!)

Look at that huge raptor! (あのでっかい猛禽を見てごらん!)

It's got seven primaries. It must be an eagle! (初列が7枚だ。ワシに違いない!)

(It's got) a big yellow bill. Pure whitetail and shoulder! It sure is a Steller's Sea-Eagle! (嘴は大きくて黄色。真白の尾と肩。間違いなくオオワシだ!)

といった会話があるでしょう。興奮もあり、文法などあまりこだわらずに、単語の羅列になり、余分なものは自然に省略されるのが普通です。

さらにフィールドを想定して、どんな言葉がよく使われるか、拾い出してみました。

すぐそこに — Right there!

Right over there!

木の上に — On the tree.

梢に — On top of the tree.

地上に — On the ground

その他の前置詞 in, by, under, above, を適宜使って鳥の位置を示すことができます。

動態 (Movement または Action) を示すには、

飛んでいる — Flying

帆翔 — Soaring

滑翔 — Gliding

停空飛翔 — Hovering

歩く — Walk, Walking

跳ねる — Hopping

What's that one soaring high, right over that white cloud?

(あの高いところ、あの白い雲のところで帆翔しているのは何だ?)

It's going away! (遠ざかっていく)

It's coming back! (戻ってくる)

It's (It has) gone! (行ってしまった)

It landed somewhere. (どこかに降りた)

要するに

以上はバードウォッチングの中でどのような英語をどのように使うか、動機づけなどについてごく限られた経験に基づいて書きましたが、要約すれば、

- * 中学程度の基礎英語で十分。
- * 鳥名をできるだけ多く覚える。
- * 英語の環境を自ら作る。
- * 反復練習。
- * チャンスを求めて Try, Try and Try!

新たなものを習得するためにはある程度の努力も必要 No pain, No gain! です。

Let's work hard, and do our best!

大宮のハクトウワシ

『しらこぼと』 No.133, 1995年5月号から